新年度電話連絡網(1993.12.1～)

→→　入矢次郎→　北村和幸→　西野誠人→　西村直久
↑　　↓
チーフスカウト
伊藤良崇→　松野真太郎→　山本亮太→　江本　勝　出口浩平
4
↑　　↓　　↓
↑　SSLへ報告　←八木立夫　← 山田泰央　SSLへ報告
↑
末吉央伯SSL→　→角井ASSL→　→遠藤ASSL

(各自の都合や不明な質問については必ず隊長へ連絡を入れること。勝手な判断はつつしむ。
また、隊側からは集会案内等の電話連絡は、そのつどしない。定例集会は毎月第３土曜夜)

10～11月の活動記録

10月10日(日)～10月11日(月)　技能章講習会 花背山の家。
参加者　八木立夫、出口浩平。

10月17日(日)　ＳＳ定例隊集会　由良川源流(京大演習林) 08:30～16:30
参加者　今井清次、八木立夫、出口浩平、末吉央伯SSL、今井喜明JASM、大西(特別参加)

10月30日(土)　上進式　ハウス長休　18:00～20:00
参加者　八木立夫、出口浩平、伊藤良崇、山本亮太、入矢次郎、北村和幸、末吉SSL。
上進者　江本 勝、山田泰央、西村直久。

11月14日(日)　報恩講　17:00～　ＳＳ定例隊集会　18:00～18:30
参加者　八木立夫、出口浩平、伊藤良崇、山本亮太、入矢次郎、西野誠人、末吉SSL。

11月23日(火)　新上進者会議　21:00～　隊長宅　21:00～22:30
参加者　江本 勝、山田泰央、西村直久、末吉SSL。

今後の日程一覧

12月18日(土)～19日(日)　ＳＳ定例隊集会　パラシュートハイク 21:00～翌朝
12月19日(日)　団行事　ハウス長休　10:00～15:00
１月１日(土)　新年の集い　ハウス長休　08:30～09:30
１月15日(土)　ＳＳ定例隊集会　21:00～22:30　隊長宅
１月16日(日)　女子駅伝奉仕　11:00～14:00　烏丸中学前集合

12月19日の団行事はＢＳ隊ＣＳ隊発隊35周年を記念して、昨年好評だったウオーク・ラリーをすこし変形させて実施します。担当はシニア隊です。高２の諸君は期末試験が終わりしだい連絡下さい。担当者会議を開きます。ＳＳＬ。

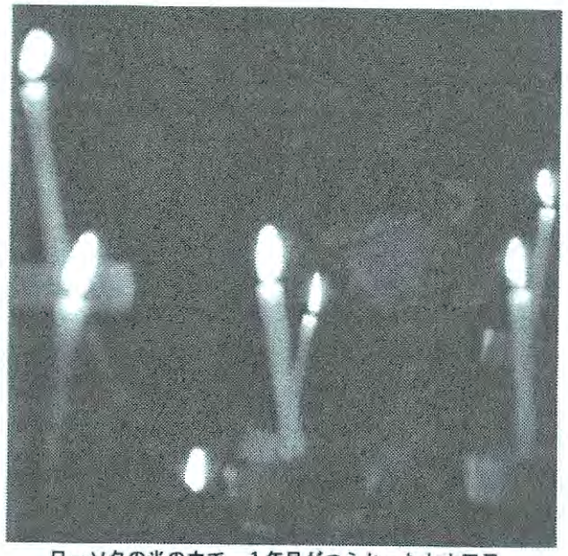
LOOK WIDE NEWS KYOTO SUNHAºCHI SENIOR SCOUTS

広観日記

3. DEC. '93
No.016

上進式は10月30日(土)夜、行なわれた
江本　勝　君
西村直久君
山田泰央君
３名の上進歓迎

ことしの上進式では、各上進者が決意表明を朗読した。雨のため室内で行なわれたが、声もよく聞こえて、かえって印象的なものとなった。


ローソクの光の中で、１年目がつらかったと山田君

上進を迎えて

山田泰央

僕の４年間のボーイスカウト生活の中で、一番苦しかったことは１年目のキャンプです。キャンプ地は信楽で、第１に苦しかったのは、僕の班は僕を含めて４人しかいなかったのでよく働かされたこと。そして第２に水汲み場が遠かったのがきつかったことだ。「寝ていいぞ」と言われたときのあの喜び、そして帰れる時のあのうれしさ、今も忘れない。

でも、キャンプを終えて家に帰ると、なぜかやりとげたという充実感が満ちて来て、また現代社会の有難みが身にしみて感じられた。炊飯器、ガスコンロ照明など、どれをとってみてもごく日常的に使っているものだけどいざなくなるとどれだけつらいかを身をもって感じた。１年目のころは、体力的なことばかりだったけど２年目、３年目となっていくにつれて技術的なことを身に付けていった。また班長になると班をまとめることに努力し、リーダーシップが育成されていったように思える。

この４年間僕にとって技術的、社会的な面でプラスになることばかりだった。僕はこの４年間を将来に役立たせていきたいと思います。

１２月隊集会案内

日　時	12月 18日(土) 21:00～
	19日(日)09:00　雨天決行
テーマ	「パラシュートハイク」
場　所	ひみつ
内　容	夜間ハイク　(一人で闇の中を歩く)
服　装	制服(着用して集合)。
集　合	21:00 隊長宅
持ち物	１泊ハイク用具一式。
	夜食、朝食支給。

筆記具、金銭出納帳、進歩記録帳、他。

シニアに上進したなら

江本　勝

僕は、さまざまな隊行事の中で、少しずつ学んでいったスカウト技能・進級の仕方・班長、次長の役割など４年間のボーイスカウト活動で、自分なりに発揮できた

ＣＳはじめみんなの前で、上進決意を述べる江本君。

ことが一番良かった。

しかし、今年班長になり班をまとめることの難しさを知った。例えば、キャンプ地で班員一人一人に仕事を与え、指示してやることなどが出来ないところをとってみても、まだまだ統率力が足りないと未熟さを特に感じた。

でも、班のみんなが、他の班にも劣らないがんばりで班をもり立ててくれたおかげで、今こうして自分が上進できるののだなと思うと充実した４年間だった。

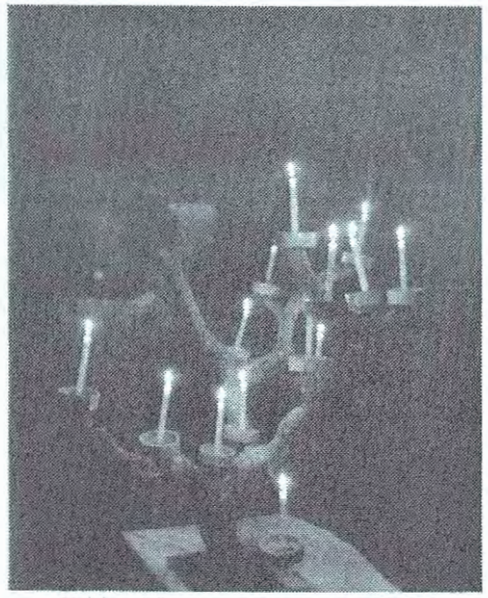
ボーイスカウトで学んで来たことが役立つ時がいつかくると思う。シニアに上進したら具体的なスカウト技能や、さらに社会性を学び、まだまだ分からないことけれども、役立つ時のため生かせるように、スカウト活動一日一日を大切にしていきたい。

上　進　へ　の　意　欲

西　村　直　久

僕はボーイスカウトに入って他では学べないものを学びました。

ちかいの式から今まで「あっ」という間のようで、数多くのことを数多くの人に教えて頂きました。



やめたいと思ったことはなかったと西村君

初めは進級を意識していました。小６の頃から進級活動を始め、試験会などにいっていましたが、なかなか２級になれず３年目までかかってしまいました。それでもあせらず楽しくスカウト活動をやってきたように思います。

中でもキャンプは、夏の１つの楽しみでした。テントが立った時のあの感動は４年目でも変わりませんでした。４年目の時は、豪雨で緊急撤収したけれど、１つの経験として良かったと思います。

僕はよく出来た班長とは思いませんが、自分の班ですごい満足もあったし、忍耐力や班員をまとめるしんどさもあったけど、でも、うまくまとめられた時は、「またやってやろう」と意欲がわきました。

ボーイをやめようと思ったことは１度もないし、これからも経験を生かして、これまでの恩を返すという意味でもお手伝いもして、がんばりたいと思います。

来日当日、日本のマスコミはどのような反応をしたか?

●少年義勇隊長来る

△横浜義勇少年出迎う

二日午後七時横浜入港のミネソタ号には萬国少年義勇隊の創設者英人サー、バーデン、ポーウエル中将が乗込んでいた。是より先横浜少年義勇隊員十八名はカーキー色の上衣に紺のズボンを穿ち同じ服装のグリッピン氏に率いられ一艘のランチに乗って中将を迎えるべく岸壁を離れた。

△満月の月色

折柄ミネソタは其巨体を徐々と港内に運び第二区に錨を投げるや歓迎の少年隊は日英米の三国旗にて満艦飾を施した本船に上った。時に満月は遙に暗き水平線上に現われ金波銀波瀲艶として春の海は悉く月色に満たされた。やがて中将は鳥打帽子に背広という軽快な服装で甲板上に現われ、中将の来訪を衷心より喜ぶ旨のグリッピン氏の歓迎の辞に対し、ポーウエル氏また短き挨拶をされ、少年隊は一足先に、中将は其後より会社のランチで上陸し、一応横浜市内見物して、再び船に帰った。

●義勇隊来

●光榮

▲満月の月色

読売新聞（明治45年4月3日）の記事

△中将の旅程

中将は本年一月五日故国を出発して渡米し、それより加奈陀〈カナダ〉を経て二月十七日シヤトルよりミネソタ号に乗り初めて日本に来遊した次第で三日正午より横浜ユーナイテッドクラブに催さるる在留英人の歓迎会に望み午後より上京し東京日光等を見物して滞在五日の後馬尼剌〈マニラ〉、濠州〈オーストラリア〉、新西蘭〈ニュージーランド〉、南米〈実は南アフリカ〉等を経て帰国する予定である。

△乃木将軍と義勇軍

少年義勇隊は昔から欧州にあったが五年前中将が初めてこれを組織してから世界各国に拡まり、其目的は日本の武士道の如く精神を鍛練し義勇の気を鼓吹し人格ある第二の国民を作るにあって昨年英国皇帝戴冠式の行われた際其分列式に乃木東郷の両将軍が望み殊に乃木将軍が彼らを嘆賞した演説は深く英国少年の記憶に泌み込んで忘れ得ざる処であるそうな。目下少年義勇隊は英に二十万米に四十万を算し其他佛独露伊を初め世界十数ヶ国にて百万余人もあり各国の少年隊は通信して親交を計りつつあるが、本年七八月頃には三十名の米国少年義勇隊は渡英して一層親交を計る筈である。

（以上『読売新聞』明治四十五年四月三日刊、慶應義塾図書館蔵／〈　〉内は筆者の註）

また日本人が作る英字新聞の"The Japan Times"もほぼ同じ内容を伝えています。

ボーイスカウトのつかの間の旅

ベーデン-パウエル中将は矢のように素早い訪問をして急いでオーストラリアへ。武士道が普及している日本ならボーイスカウト運動はいらないと語った。

イギリスボーイスカウトの創設者のベーデン-パウエル陸軍中将は、昨日午後六時三十分、グレート・ノーザン汽船のミネソタ号で横浜に到着した。グリフィン隊長率いる十八名の横浜のスカウトはランチに乗り出迎えた。B-Pはミネソタに乗ってきたスカウトたちに心からの感謝を表した。

ジャパンタイムズの記者のインタビューに対し、B-Pはすべての階級の人々に、武士道精神が浸透している日本においては、特別なボーイスカウトは必要ない。ボーイスカウトの組織の方針や目的は日本における武士道と同じように、精神を鼓舞するのである。アメリカでは現在約四十万のスカウトが、イギリスには二十万のスカウトがいる。将軍はこの組織を世界中に広げていくつもりだ。

またこの六月には三十人のアメリカのスカウトがイギリスを訪れ特別の訓練を受ける予定だとB-Pは語った。